感染症の種類と対応

〇感染力が強く、病気が治るまで登園できない感染症

	病気	潜伏期間	症状と特徴	登園のめやす
①	麻疹(はしか) ＊麻疹ウイルス	8～12日	発症初期には、高熱、咳、鼻水、結膜充血、目やに等から始まる。一旦解熱するが、再び上昇し、口の中に白いブツブツがみられる。その後、顔や頚部に発疹が出現し、赤みが強く、やや盛り上がる。解熱すると発疹は色素沈着を残して消える。 肺炎、中耳炎、熱性けいれん、脳炎を合併することがあるため注意が必要。	解熱後3日を経過していること
②	インフルエンザ *インフルエンザウイルス	1～4日	突然の高熱が出現し、3～4日続く。 倦怠感、食欲不振、関節痛、筋肉痛等の全身症状や咽頭痛、鼻汁、咳等の気管支症状を伴う。通常、1週間程度で回復するが、気管支炎、肺炎、中耳炎、熱性けいれん、急性脳症等、合併することがある。	発症した後5日経過し、かつ解熱した後3日経過していること(乳幼児の場合)
③	新型コロナウイルス感染症 ＊新型コロナウイルス	約5日間 (最長14日間 オミクロン株 は短縮傾向)	有症状者は、発熱、呼吸症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常など。無症状で経過することもある。 鼻やのどからのウイルスの排出期間の長さに個人差があるが、発症2日前から発症後7～10日間はウイルスを排出されている。 特に、発症後5日間が他人に感染させるリスクが高いことに注意する。	発症した後5日間を経過し、かつ症状が経過した後1日を経過すること 無症状の感染者の場合は、検体採取日を0日目として、5日を経過すること ＊注)　令和5年5月8日現在
④	風疹 ＊風疹ウイルス	16～18日	発疹が顔や頚部に出現し、全身へ拡大する。発疹は紅斑で融合傾向は少なく、約3日間で消え、色素沈着も残さない。発熱やリンパ節腫脹を伴うことが多く、悪寒、倦怠感、眼球結膜充血を伴うこともある。 合併症として、関節痛・関節炎、血小板減少性紫斑病、脳炎、溶血性貧血、肝機能障害、心筋炎等がある。	発疹が消失していること
⑤	水痘(水ぼうそう) *水痘・帯状疱疹ウイルス	14～16日	発疹が顔や顔面に出現し、やがて全身へ拡大する。発疹は、斑点状の赤い丘疹から始まり水疱(水ぶくれ)となり、最後は痂皮(かさぶた)となれば感染がなくなる。 合併症は、脳炎、小脳失調症、肺炎、肝炎、発疹部分からの細菌の二次感染等がある	全ての発疹が痂皮(かさぶた)化していること

⑥	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ) *ムンプスウイルス	16～18日	主な症状は、発熱と唾液腺(耳下腺、顎下腺、腺、舌下腺)の腫脹・疼痛である。 発熱は1～6日間続く。唾液腺の腫脹は片側が腫脹し、数日して反対側が腫脹することが多い。発症後1～3日にピークとなり、3～7日で消える。腫脹部位に疼痛があり、唾液の分泌により痛みが増す。 無症状で経過する場合もあり乳児に多い。 中枢神経系、膵臓、生殖腺にも感染するため、無菌性髄膜炎、難聴、脳炎・脳症、精巣炎、卵巣炎などの重い合併症をきたしたりする。	耳下腺、顎下腺、舌下腺の膨張が発現してから5日経過し、全身状態が良好になっていること
⑦	結核 *結核菌	3か月～ 数10年	全身に影響を及ぼす感染症だが、特に肺に病変が生じることが多い。主な症状は、慢性的な発熱(微熱)、咳、疲れやすさ、食欲不振、顔色の悪さ等である。 症状が進行すると、菌が血液を介して全身に散布されると呼吸困難、チアノーゼ等ががみられることがある。	医師により感染のおそれがないと認められていること。
⑧	咽頭結膜熱 (プール熱) *アデノウイルス	2～14日	主な症状は、高熱、扁桃腺炎、結膜炎。 プールの水を介して感染することもあるが接触感染によって感染することが多い。	発熱、充血等の主な症状が消失した後、2日を経過していること
⑨	流行性角結膜炎 *アデノウイルス	2～14日	主な症状は、目が充血し、目やにが出る。 幼児は目に膜が張ることもある。 片方の目で発症した後、もう一方の目に感染することもある。	結膜炎の症状が消失していること
⑩	百日咳 ＊百日咳菌	7～10日	特有な咳(コンコンと咳込んだ後、ヒューという笛を吹くような音を立てて息を吸う)が特徴で、連続性・発作性の咳が長期に続く。夜間眠れないほどの咳がみられることや、咳とともに嘔吐することもある。発熱することは少ない。	特有な咳が消失していること又はは5日間の適正なな抗菌薬による治療が終了していること。
⑪	腸管出血性大腸菌感染症 *O157．O26．O111等 ベロ毒素を産出する大腸菌	ほとんどの大腸菌が10時間～6日。O157は3～4日。	無症状の場合もあるが、多くの場合には、主な症状として水曜下痢便や腹痛、血便がみられる。	医師において感染のおそれがないと認められていること。無症状の場合、トイレでの排泄習慣が確立している5歳以上子どもは登園を控える必要はない。5歳未満の子どもは、2回以上連続で便から菌が検出されなくなり、全身状態が良好であれば登園可能。

⑫	急性出血性結膜炎 ＊エンテロウイルス	ウイルスの種類によって、平均24時間又は2～3日と差がある。	主な症状として、強い目の痛み、目の結膜(白眼の部分)の充血、結膜下出血がみられる。また目やに、角膜の混濁等もみられる。	医師により感染の恐れがないと認められること。
⑬	侵襲性髄膜炎菌感染症 (髄膜炎菌性髄膜炎) ＊髄膜炎菌	4日以内	主な症状は、発熱、頭痛、嘔吐であり、急速に重症化する場合がある。回復した後も、難聴、麻痺、てんかん等の後遺症が残る場合もある。	医師により感染の恐れがないと認められること。

〇条件によっては登園できない感染症

⑭	溶連菌感染症 ＊溶連菌レンサ球菌	2～5日 伝染性膿痂疹(とびひ)では7～10日	主な症状として、扁桃炎、伝染性膿痂疹(とびひ)、中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、骨髄炎、等の様々な症状を呈する。 扁桃炎は発熱やのどの痛み・腫れ、化膿、リンパ節炎が生じる。舌が苺状に赤く腫れ全身に鮮紅色の発疹が出る。また発疹が治まった後、指の皮がむけることがある。	抗菌薬の内服後24～48時間が経過していること
⑮	マイコプラズマ肺炎 ＊肺炎マイコプラズマ	2～3週	主な症状は咳であり、肺炎を引き起こす。咳、発熱、頭痛等のかぜ症状がゆっくり進行する。特に咳は徐々に激しくなり、数週間及ぶこともある。	発熱や激しい咳が治まっていること
⑯	手足口病 *コクサッキーウイルス *エンテロウイルス	3～6日	口腔粘膜と手足の末端に水疱性発疹が生じる。また、発熱とのどの痛みを伴う水疱(水ぶくれ)が口腔内にでき、唾液が増え、手足の末端、おしり等に水疱が生じる。 時に、水痘と間違えられるほどの発疹がでたり、爪がはがれたりすることもある。	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること。
⑰	伝染性紅斑(りんご病) *ヒトパルボウイルス	4～14日	感染後5～10日に数日間のウイルス血症を生じ、この時期に発熱、倦怠感、頭痛、筋肉痛等の軽微な症状がみられる。その後、両側頬部に丘疹が現れ、3～4日で融合して蝶翼状の紅斑となるため「りんご病」と呼ばれる。四肢の発疹は網目状、レース様に現れ１～2週間続く。	全身状態が良いこと
⑱	ウイルス性胃腸炎 (ノロウイルス感染症) ＊ノロウイルス	12～48時間	症状は嘔吐と下痢であり、脱水を合併することがある。多くは1～3日で治癒する。 注)感染者の便、嘔吐物の中にも多量のウイルスが含まれる。感染力が強く、乾燥してエアゾル化しし空気感染する。	嘔吐、下痢等の症状が治まり普段の食事がとれること。 ＊ウイルスは便中に3週間以上排出されるため、排便後やおむつ交換後の手洗いは大切です。

⑱	ウイルス性胃腸炎 (ロタウイルス感染症) ＊ロタウイルス	1～3日	症状は嘔吐と下痢であり、しばし白色便となる。脱水がひどくなり痙攣がみられるなどにより入院することもある。 多くは2～7日で治癒する。 注)感染者の便、嘔吐物の中にも多量のウイルスが含まれる。	嘔吐、下痢等の症状が治まり普段の食事がとれること。 ＊ウイルスは便中に3週間以上排出されるため、排便後やおむつ交換後の手洗いは大切です。
⑲	ヘルパンギーナ ＊コクサッキーウイルス他複数	3～6日	発症初期には、高熱、のどの痛み等の症状がみられる。咽頭に赤い粘膜疹がみられ、次に水疱(水ぶくれ)となり、間もなく潰瘍となる。高熱は数日続く。 多くは2～4日の自然経過で解熱し治癒するが、熱性けいれんや髄膜炎、脳炎を合併することもある。	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること。
⑳	RSウイルス感染症 ＊RSウイルス	4～6日	呼吸器感染症で、乳幼児期に初感染した場合の症状が重く、特に生後6か月未満の乳児は重症な呼吸器症状を生じ、入院管理が必要となる場合もある。 一度かかっても十分な免疫が得られず、何度も罹患する可能性があるが、再感染、再々感染した場合には、徐々に症状が軽くなる。2歳以上で再感染した場合は軽い咳・鼻水程度で経過することが多い。	呼吸器症状が消失し、全身状態がいいこと。
㉑	帯状疱疹 *水痘・帯状疱疹ウイルス	不定	水痘に感染した場合、神経節にウイルスが潜伏感染しており、免疫機能の低下、ストレス、加齢を等をきっかけとして、神経の走行に沿った形で、身体の片側に発症する。数日間、軽度の痛みや違和感、かゆみがあり、その後に多数の水疱が集まり紅斑となる。日が経つと膿疱や血疱、びらんになることもある。発熱はほとんどない。通常1週間で痂皮化して治癒する。子どもの場合は、痛みは大人ほど強くはない。	すべての発疹が痂皮(かさぶた)化していること。 *注) 水痘ワクチンの未接種かつ水痘に未罹患の者が帯状疱疹罹患者に接触すると水痘にかかる可能性がある。
㉒	突発性発疹 *ヒトヘルペスウイルス	9～10日	生後6か月～2歳によくみられる。 3日間程度の高熱の後、解熱するとともに紅斑が出現し、数日で消失する。 稀に熱性けいれん、脳炎・脳症、肝炎を合併することがある。	解熱し機嫌がよく全身状態が良いこと。

〇集団保育で適切な対応が求められる感染症

㉓	アタマジラミ症 *アタマジラミ(2～4ミリ)の少し灰色の虫	10～30日 ＊卵は7日で孵化する	卵は頭髪の根本近くにあり、毛にかたく付着して白く見える。フケのように見えるが、卵は指でつまんでもとれない。 成虫は頭髪の根元近くで活動している。 成虫及び幼虫が吸血するため、頭皮が痒くなり、かきむしることがある。	受診し治療を開始していれば通園可能。 毎日専用のシャンプーを行い、成虫や卵を取り除くこと。
㉔	疥癬 *ヒゼンダニ(成虫は0.4㎜皮膚の一番浅いところに寄生する。	約1か月 感染してから皮疹、痒みが出現する期間	痒みの強い発疹(丘疹、水疱、膿疱、しこりができる。手足には線状の隆起した皮疹もみられる。痒みは夜間に強くなる。	受診し治療を開始していれば通園可能。
㉕	伝染性軟属腫(水いぼ ＊伝染性軟属腫ウイルス	2～7週	1～5㎜程度の常色～白色～淡紅色の丘疹、小結節(しこり)で、表面は艶があって、水疱(水ぶくれ)に見える。多くの場合は、数個～数十個が集まっている。 四肢、体幹によくみられるが、顔、首、陰部等どこにでもできる。 数カ月から半年もの長期間をかけて自然治癒することもある。	皮膚が接触することで周囲の子どもに感染する可能性があるため、発疹を衣類、包帯、耐水性絆創膏等でおおう必要がある。プールも同様にラッシュガード等で接触しないようにおおう。
㉖	伝染性膿痂疹(とびひ *黄色ブドウ球菌 *溶血性レンサ球菌	2～10日	主な症状として、水疱(水ぶくれ)やびらん、痂皮(かさぶた)が、鼻周囲、体幹、四肢等の全身にみられる。浸出液に原因菌が含まれているため、患部を引っ掻くことで、数日～10日後に隣接する皮膚や離れた皮膚に新たに病変生じる。	浸出液が染み出ないようにガーゼ等でおおってあれば通園可能だが、病変部をかくことで病変が悪化したり、他の人に触れることで感染したりするのでプールや水遊びは治癒するまでやめる。
㉗	B型肝炎 *B型肝炎ウイルス	急性では45～160日 (平均90日)	ウイルスが肝臓に感染し、炎症を起こす病気である。 キャリアでは、自覚症状はない	血液や体液にウイルスが含まれているため、傷がある場合は耐水性絆創膏等できちんとおおう。

＊ 子ども家庭庁「保育所における感染症対策ガイドライン」　2018年3月(2023年10月一部修正)参照